

「防災スペシャリスト養成」有明の丘研修 令和6年度 第2期

## 「応急活動・資源管理」コース

### 【各講義の内容と学習目標】

オンデマンド講義：R7年1月27日（月）～ 3月2日（日）

対面演習 : R7年2月20日(木)

形式		単元No.	単元名	単元の概要	講義No.	時間	動画 時間	講師	学習目標				
オン デ マ ン ド	講 義	0	コース紹介		0	9分	9分	宇田川 真之 (防災科学技術研究所)					
		1	応急活動・資源管理総論	応急活動の流れと資源管理に関する基本的な考え方について学ぶ。	1	74分	1分	宇田川 真之 (防災科学技術研究所)	・ 応急活動と資源管理について説明できる。 ・ 初動対応と資源（大規模災害への対応）について説明できる。 ・ 応急期の物的な資源管理（救援物資業務）について説明できる。 ・ 応急期の人的な資源管理（応援受援活動）について説明できる。				
							8分						
							16分						
							31分						
							16分						
		2		国における初動対応の内容とその連携のあり方について学ぶ。	2	27分	27分	小原 信宏（内閣府）	・ 災害発生時の政府の初動対応について説明できる。 ・ 現地対策本部について説明できる。 ・ 南海トラフ地震、首都直下地震、日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震における具体的な 応急対策活動に関する計画について説明できる。				
		3	地方公共団体間の 相互応援と受援体制	災害時の行政機関の間で行われる応援受援の仕組みと 受援体制について学ぶ。		3-1-1	41分	41分	豊泉 英明（内閣府）	・ 応急活動の実施にあたっての行政職員の確保の重要性を説明できる。 ・ 行政機関の間で行われる応援受援の仕組みを説明できる。 ・ 行政機関の応援受援を円滑に行うための留意点を説明できる。			
									3-1-2		7分	7分	原 章仁（内閣府）
									3-2		30分	30分	伊藤 哲也（総務省）
									3-3		44分	27分 17分	田代 崇憲（大野城市）
		4	災害廃棄物処理	被災地における資源確保の例として、災害廃棄物の撤去・処理の進め方と留意点を事例に基づき学ぶ。		4-1	23分	23分	鳥居 ほのか（環境省）	・ 災害廃棄物処理の概要を説明できる。 ・ 災害廃棄物処理における資源管理と応援受援を説明できる。			
									4-2		40分	40分	渡邊 高之（常総市）
		5	救援物資の調達/ 救援物資の輸配送	救援物資の調達に関する実務と課題について学ぶ。		5-1	33分	33分	西室 幸徳（コメリ災害対策センター）	・ 救援物資の民間企業・団体からの調達の実態について説明できる。 ・ 救援物資を民間企業・団体から円滑に調達するための留意点を説明できる。 ・ 救援物資を民間企業・団体から円滑に調達するための備えを説明できる。			
	救援物資の輸配送に関する実務と課題について学ぶ。			5-2					29分		29分	森下 侑里香（佐川急便）	・ 救援物資の輸配送の実態について説明できる。 ・ 救援物資の輸配送を民間企業・団体と連携して行う際の留意点を説明できる。 ・ 救援物資の輸配送を円滑に行うための事前の備えを説明できる。
6	活動拠点・環境の確保	応急活動を行うために必要となる活動拠点や通信サービス等の確保について学ぶ。			6-1	16分	16分	金子 純二（電気通信事業者協会）		・ 活動拠点・環境の確保のための事前準備について説明できる。 ・ 災害発生時において、応急活動を行うために求められる空間確保（道路網、活動拠点等）について説明できる。 ・ 災害発生時において、応急活動を行うために求められるサービスの確保（燃料等）について説明できる。			
				6-2	31分	31分	富永 仁美（全国石油商業組合連合会）						
				6-3	33分	33分	島野 敏寛（日本水道協会）						
				6-4	30分	30分	光田 毅（東京電力）						
フ ィ ク	7	救援物資 ロジスティクス演習	救援物資の調達から輸送・保管・配布における留意点などを学ぶ。	7	28分 +@	28分 +@	内閣府（防災デジタル・物資支援担当）	・ 救援物資の調達業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。 ・ 救援物資の倉庫業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。 ・ 救援物資の輸配送業務の流れと留意点を、具体的に説明できる。					

対 面	演 習	8	【共通】 応急活動討議演習	救援物資の調達から輸送・保管・配布における留意点などを演習形式で学ぶ。	8	90分	宇田川 真之 (防災科学技術研究所) 松永 正大 (元 全国物流ネットワーク協会)	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 官民の多様な機関と連携した応急活動の実施体制を構築する際の留意点を挙げる。</li><li>・ 官民の多様な機関と連携して必要な資源（施設、資機材等）を確保する際の留意点を列挙できる。</li><li>・ 官民の多様な機関と連携して応急活動の実施方針を策定する際の留意点を列挙できる。</li></ul>
		9	【実務担当】 救援物資机上演習	救援物資の調達から輸配送の流れを机上演習形式で学ぶ。	9	150分		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 救援物資の調達における情報と物資の流れを具体的に説明できる。</li><li>・ 救援物資の拠点入出庫における情報と物資の流れを具体的に説明できる。</li><li>・ 救援物資の輸配送における情報と物資の流れを具体的に説明できる。</li></ul>
			【一般管理】 人的資源管理演習	災害対策本部における人的資源の確保・管理等における留意点などを演習形式で学ぶ。				<ul style="list-style-type: none"><li>・ 被災自治体における人的な応援受援の流れの概要を具体的に説明できる。</li><li>・ 応援受援団体が連携して全庁マネジメントの改善を図る際の着眼点を列挙できる。</li><li>・ 応援受援団体が連携して主要応急業務の改善を図る際の着眼点を列挙できる。</li></ul>
		10	【共通】全体討論	本コースで学んだことを、自らの組織における平常業務や災害対応でどのように反映させるのか考える。	10	60分		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修受講の目的を再認識する。</li><li>・ 研修を通じて、学び、得たものを整理する。</li><li>・ 研修を活かして次につなげることを認識する。</li></ul>